

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0889 ◆◆◆

26/04/30

【 4月相場、月末に160円突破も4年ぶりの「月間小変動」 】

4月は本日が最終日。つまり、まだもう一日営業日が残っているものの、4月の月間変動幅はここまでわずか2.88円(157.59-160.47円)にとどまっている。これはもちろん今年の最小変動幅となるだけでなく、2022年2月(2.18円)以来およそ4年ぶりの小変動だ。改めて指摘するまでもなく、4月はなかなか重要な材料が少なくなかったが、為替市場の反応は鈍くドル/円が動いたのは月末ギリギリになってから。そしてまだ、レンジを「しっかり」と抜けたとは言えそうになく、明日から始まる5月相場で再びレンジへと回帰する可能性も否定できない。

しかし、興味深いのは前述した前回2022年のケースは、月間変動2.18円にとどまった翌3月になると10.45円(114.65-125.10円)という大荒れ相場をたどっているということ。つまり、今回についてもヒョツとしたら、4月の小動きは「嵐の前の静けさ」である可能性もあり、それに一抹の期待をしておきたい。

◎4月と5月の相場は逆方向に動くことが多い、今年は「ドル安」有利!?

今回の当レターは、恒例となっている過去の経験則を参考にした来5月相場の見通しを指摘してみたい。まずは1990年以降昨年まで、過去36年間の星取表を指摘すると19勝17敗となっている。若干ドル高が優勢ではあるものの、ほぼ互角の結果であり大きな特徴とは言えないようだ。

しかし、4月相場と5月相場、単月ではなく2ヵ月続けてみた場合、興味深い事象がうかがえる。それは、「4月相場と5月相場は逆方向に動くことが多い」で、調べてみると2015年以降2022年まで8年連続でパターンに合致していることがわかった。2023年は残念ながら4月、5月とも「ドル高」で方向性は一致。パターンから外れたものの、2024年と昨2025年は再び「逆方向」のパターンに回帰している。

そして、今年の足もと4月相場のドル/円は前述したとおり非常に小動きだが、それでもオープン158円台。となると、「このまま終われば」という前提ながら、160円前後で月末クローズとなりそうだ。その場合、来5月は逆方向、「ドル安・円高」が有利ということになるのだが、果たして如何に!?

また、それとは別の5月相場の特徴を調べてみると、昔は「年間を通してかなり荒れ模様の展開を辿ることが少なくなかった」のだが、近年は逆に「動きの鈍い」展開が少なくない。幾つか例を挙げると、2020年は月間変動幅がたったの2.10円。翌2021年も同1.86円で年間を通し最小変動幅だし、2022年の月間変動幅は4.99円に過ぎない。また、2024年も月間変動幅は6.12円を記録したが、大きく動いた月が全体として多かったことで年間10位の「小変動」。昨年も同様で、4月の変動幅10.6円から6.53円へと動意が鈍っていた。

筆者も、いち市場参加者としては、数年ぶりの小動きに終わった足もと4月からの巻き返し、「大変動」を期待したいところだが、月次の経験則的からは逆の結果が示されていることが残念でならない。

一方、材料的な要因で考えると、来5月はなかなか気になる要因が目白押し。詳細は先週のレポートに譲るが、「英地方選」や「トランプ米大統領の訪中」、そして「パウエルFRB議長の任期切れ」——といった政治的な要因がまずは散見される。

また、米国とイスラエルのイラン攻撃開始から4月28日で2ヵ月が経過。米・イランの対面協議再開はメドが立たず、膠着状態となっているものの、米CNNテレビは「協議を仲介するパキスタンが、イランから戦闘終結に向けた提案の改定案を数日中に受け取る見通しを示している」と報じていた。5月中には中東情勢になんらかの目鼻がつけられることになるかもしれない。いずれにしても、それらは相場変動に大きな影響を及ぼしかねないと考えられるだけに、しっかりとウォッチしておきたいところだ。

最後に、相場環境的なもの考えた場合、先でも触れたように5月にドル/円が160円台を「しっかり」と回復・定着。さらに2024高値161.96円を更新するような展開にでもなれば、同年7月以来となる当局の「ドル売り・円買い」介入が観測される可能性も否定できない。(了)

ー恐縮ですが、来週はゴールデンウィーク期間にあたるということで、当レターはお休みさせていただきます。楽しいゴールデンウィークをお過ごしください。次回は 5 月 13 日付となりますので、よろしくお願い申し上げます。



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



FX-newsletter